指導者と教育

指導者と教育

朝鮮民主主義人民共和国
外国文出版社
チュチェ110(2021)

目　次

はじめに ………………………… 4

教育事業の師 ………………………… 6

全般的12年制義務教育の実施 ………………………… 6

新年の初出 ………………………… 8

育児院で ………………………… 8

愛育院で ………………………… 13

また手に取った知能教育図書 ………………………… 17

院児たちが頼る懐 ………………………… 19

すべての教育施設を遜色のないものに ………………………… 23

洋服掛けが付いている長椅子 ………………………… 25

願いがまた一つかなったとして ………………………… 27

万景台革命学院が伝える話 ………………………… 33

父親に代わって ………………………… 33

学院に借りができたと言って ………………………… 36

講義室を見て回り ………………………… 38

再び訪ねて ………………………… 41

改築された平壌教員大学を訪ねて ………………………… 43

慈愛深い学父母 …… 50

新しい制服 …… 50

かばん用布生産のために …… 52

「ミンドゥレ・ノート工場」 …… 53

ずっといたくなる工場 …… 57

子供たちのホテル …… 61

新世紀の要求に即して …… 61

しゃれた建築物 …… 63

一日を子供たちとともに …… 67

子供たちの笑い声が絶えず
響き渡るように …… 69

何の前触れもなくやってこられて …… 71

万景台少年団野営所を訪ねて …… 76

万景台学生少年宮殿をより立派に …… 77

優待される教員 …… 84

超高層アパート …… 84

教員たちは愛国者である …… 84

至らぬ点はないかと …… 88

竣工式にも臨席して …… 96

大同江に浮かんだ「ヨット」 …… 101

何も惜しくない …………………………… 101
科学重視、人材重視の象徴 ………………… 105
科学によって人民の楽園を ………………… 107

結びの言葉 ………………………………………… 111

はじめに

教育事業を国事中の国事としている朝鮮では、新しい世代を多面的に発達した人材として育てるため、教育の条件と環境、内容と方法を絶えず改善している。

就学前教育と小学校、初級・高級中学校の中等一般教育の全課程が, 全般的12年制義務教育制によって法的に保障され、大学教育の水準が日ごとに向上している。

教育事業に対する国家の投資が増え、社会的関心が高まる中、育児院や愛育院、初等学院・中等学院と少年宮殿をはじめ国の教育施設全般が改造され、教育者を押し立てている朝鮮の現実は世界の注目をひいている。

本書は、「**科学によって飛躍し、教育によって未来を保障しよう！**」というスローガンを提示し、教育の発展に深い関心を払っている朝鮮労働党総書記・朝鮮民主主義人民共和国国務委員長である敬愛する金正恩（キムジョンウン）同志の賢明な指導があるがゆえに、朝鮮は遠くない将来に経済発展と人民生活の向上においてより大きな前進を遂げることができるということを、さまざまな出来事を通じて端的に示している。

教育事業の師

全般的12年制義務教育の実施
新年の初出
　育児院で
　愛育院で
また手に取った知能教育図書
院児たちが頼る懐
すべての教育施設を遜色のないものに
洋服掛けが付いている長椅子
願いがまた一つかなったとして
万景台革命学院が伝える話
　父親に代わって
　学院に借りができたと言って
　講義室を見て回り
　再び訪ねて
改築された平壌教員大学を訪ねて

教育事業の師

全般的12年制義務教育の実施

2012年9月25日、金正恩総書記の出席の下に行われた朝鮮民主主義人民共和国最高人民会議第12期第６回会議では、全般的12年制義務教育実施に関する問題について討議し、次のような決定を採択した。

１．朝鮮民主主義人民共和国の全地域で全般的12年制義務教育を実施する。

２．全般的12年制義務教育の実施に関連して、不足する教員を補充し、教員の水準を高め、教育方法を改善するための対策を立てる。

３．教育事業に対する国家の投資を増やし、全般的12年制義務教育の実施に必要な条件と環境を整える。

４．全般的12年制義務教育を成功裏に実施するための行政的指導と法的統制を強化する。

５．朝鮮民主主義人民共和国内閣と当該機関は、この法令を執行するための実務的対策を立てること。

全般的12年制義務教育制は、共和国政府が実施してき

た全般的11年制義務教育制の深化発展であり、中等一般教育体系の新たな高い段階である。

全般的12年制義務教育は、１年間の就学前教育から５年制小学校、３年制初級中学校、３年制高級中学校に至る12年間の体系的な教育期間に一般基礎知識と現代的な基礎技術知識を与え、新しい世代に中等一般教育を授ける義務教育である。

１年間の就学前義務教育では、子供たちに学校教育を受けるための基礎を与え、５年制小学校では、児童の成育に深い関心を払うとともに、自然と社会に関する基礎知識を与えて、中等教育を十分に受けられるようにする。

3年制初級中学校では、生徒に共通の中等一般基礎知識を与え、3年制高級中学校では、中等一般知識を完成させるとともに、知識経済時代の要求に即して実際に役立つ基礎技術知識を与える。

全般的12年制義務教育制は、情報産業時代、知識経済時代の要求に即して中等一般教育を完成できるようにする教育制度である。

新しい義務教育制は、少年期と青年期の児童・生徒の成育と年齢的・心理的特性、品格の形成と生活の特性に応じて教育活動を行う義務教育制である。

新しい義務教育制により、児童・生徒は科学技術が急

速に発展するにつれて増大する幅広い知識を十分習得し、卒業後、社会に出て自立的に活動する能力を備えることができるようになり、教育の内容と質的水準において画期的転換がもたらされた。

新しい義務教育制は、育ちゆくすべての新しい世代に労働年齢に達するまでの全期間にわたって教育を授ける義務教育制であり、教育事業に必要な費用を国家が全的に責任をもって負担する無料教育制である。

全般的12年制義務教育の実施は朝鮮労働党の重大な措置であり、国の教育事業をさらに発展させようとする金正恩総書記の確固たる意志を示している。

新年の初出

育児院で

金正恩総書記は2015年1月1日、新年の初出として平壌育児院・愛育院を訪ねた。

総書記は育児院と愛育院の建物を見渡し、「平壌育児院と愛育院は見れば見るほど立派です。本当に素晴らしい。世界にこのように素晴らしい子供たちの宮殿、幸せの揺籃はないでしょう」と言い、よい生活環境、教育条件を整

平壌育児院・愛育院を訪ねた金正恩総書記
(2015年1月1日)

え、このように新年を迎えたので気分がよい、平壌育児院・愛育院を建てた甲斐があると満面に笑みを浮かべた。

そして、「**私は今日、愛情を求めている院児たちと一緒に正月を過ごすために、新年の辞を述べた後、真っ先に平壌育児院と愛育院を訪ねました。新年の辞で全国のかわいい子供たちにより明るい未来があることを祈ってみると、平壌育児院と愛育院の院児たちが一層見たくなりました**」と言った。

総書記は、今は昼御飯の時間だからちょうどよい、まず食堂に行って院児たちが昼食をとるのを見ようと言い、食堂に入った。

昼御飯を食べている院児たちの間に座り、その様子をじっと見ていた総書記は、食卓に上っている料理はノロの肉汁のようだが、育児院で院児たちの正月料理の準備をよく整えたと言った。それから食器の消毒状況と魚の供給状況を確かめた。

遊び場で子供と保育員たちの歌を聞いた総書記は、そこを出る時に保育員が抱いている子供の頬を軽くたたいて三つ子なのかと聞いた。

保育員は、「元帥様、この三つ子はまもなく家に帰ります。子供たちの記念になるように写真を一枚撮ってください」と頼んだ。

総書記はそうかとうなずき、随行員たちに、知能遊戯

室で遊んでいる院児たちの中に育児院での生活を終えて家に帰る三つ子がいるということだが、その子たちの記念になるように、みんな一緒に写真を撮ろうと言い、どこで撮るのがいいだろうかと聞いた。

写真を撮る準備を急ぐ子供たちを見て愛育院の院長が、院児の皆さん、この愛育院院長先生を見なさい、元帥様が皆さんと写真を撮ってくださるから、にっこりと笑って写しましょうと言った。

総書記は声を出して笑い、それは駄目だ、子供たちは自分たちの育児院院長の言うことは聞いても、愛育院の院長おばあさんの言うことを聞くはずがないと言った。

写真を撮り終え、保育員と院児たちは、「敬愛する元帥様、どうかお元気で」「元帥様、新年もお体を大事

に」と言ってお辞儀をした。

総書記は軽くうなずき、子供たちを丈夫に育てて下さい、早く遊ばせるようにと言った。

教育３班の洗面所、寝室などを見て回って廊下に出た総書記は、このように育児院と愛育院が隣り合わせになっているので互いに競い合っているだろうと言った。

随行員がそのとおりです、互いに盗み見しながら競争していますと答えると、総書記は、**「平壌育児院と愛育院が同じ建物の中にあるのですから、互いに競争しながら管理運営を引き続き改善していくようにすべきです」**と述べた。

水遊び場に入った総書記は水に手を漬けて水温を確かめ、水温が34～35度だということだが、子供たちが利用

する水遊び場の水温はこれくらいでなければならないと指摘した。

脱衣室の低い扉を見た総書記は、脱衣室の開口部に扉を取り付けたのはよいことだ、この前来た時には扉がなかったのに取り付けてよかったと言った。

そして、院児たちが幼くても、着がえをするのが見えないように開口部に扉を取り付けてやるべきだ、院児たちが幼い時から恥ずかしさも知るようにしなければならないと言った。

愛育院で

金正恩総書記が愛育院の２階へ上がった時、二人の子供が花束をささげ、「父なる金正恩元帥様、立派な愛育院を建ててくださって本当に有難うございます」「父なる元帥様、立派な宮殿を建ててくださった元帥様に、われわれ院児の心をこめて新年の挨拶をささげます」と言ってお辞儀をした。

愛育院の幹部が、総書記がこの前愛育院を訪ねた時に頬に２回もキスしてくださった子だと言うと、総書記は、私はこの子たちを知っているとし、**「お前たちだな、元気だったか？」**と言って二人の子供を抱きかかえた。

そして、院児たちに御飯もたくさん食べさせ、運動もたくさんさせ、睡眠も十分にとらせるように、そうしてこそ院児たちの体が丈夫になり、彼らが大きくなって立派な人になれると指摘した。

下級２班の教室に入り、教養員の弾くオルガンの伴奏に合わせて院児たちが歌う『ちびっ子軍隊　進め』の歌を聞き終えた総書記は、今は昼寝の時間のようだが寝かせなければならない、昼寝の時間に私が来たからといって寝かせないようなことをしてはいけないと指摘した。そして、院児たちはもっと歌を歌いたいと言っているが、そうせずに早く寝かせなさい、私は院児たちがベッドで寝ている姿も見たいのだと言った。寝室に入った総書記は、子供たちは自分が寝る場所を知っているのかと聞いた。みんな知っていると教養員が答えると、総書記は寝室に入ってきた子供たちに、お前たちは自分が寝る場所を知っているのかい、さあ自分の場所に入ってみろと言った。子供たちが素早く自分の場所に入ると、総書記は部屋を出て、平壌育児院と愛育院では院児たちの保育、教育に必要な条件と環境を改善することに引き続き力を入れるべきだと強調した。

そして、愛育院を本当に立派に建てたとして、「**院児たちは愛情によって育てなければなりません。院児たちが一**

番求めているのは愛情です。保育員と教養員は院児たちを実母のように温かく見守り、院児たちの顔に一点のかげりも差さないようにしなければなりません」と指摘した。

そして、「今日は本当に気分がいい。院児たちがこんなに立派な家で、顔に一点のかげりもなく思う存分歌を歌い、踊りを踊りながら正月を過ごしているのを目にして、どんなにうれしいか分からない」として、平壌育児院と愛育院に来て、はしゃぎ回る院児たちを見ると、この家を建てるのに苦労した誇りと自負を感じるとともに、これからなすべき仕事に対する意欲と自信がわいてくると述べた。

総書記が１階の遊び場で院児たちの新春公演を観てい

た時のことである。『われら幸せうたう』の第２節を歌い終えた院児たちが、わたくしたちが愛情を求めていると言って、祝日にも訪ねてくれ、冬の寒い日にも来てくれて愛情をそそいでくださる元帥様、宮殿のような愛育院を建て、何不自由なく育ててくださる敬愛する元帥様はわたくしたちの実のお父さんですと声を張り上げた。教養員たちも涙を流し、院児たちも涙を流して総書記を仰ぎ見ながら歌の第３節を歌い始めた時、総書記の目にも涙がにじんでいた。

公演を終えた子供たちが駆けてきて総書記の懐に飛び込み、写真を撮ってほしいとだだをこねると、総書記は、ああ撮ろうと言い、その準備を急ぐ教養員たちを見て、あわてるんじゃないとたしなめた。

総書記は、一番に駆けてきたキム・ジンソンを抱いて、

自分はこの子の頬に２回キスしてやったのだから、これで３回目だ、丈夫に育つんだぞと言った。そして、公演に参加した院児と教養員たちとともに記念写真を撮った。

また手に取った知能教育図書

2015年1月1日、金正恩総書記が平壌育児院を見て回った時のことである。

ちょうど昼時なのでまず院児たちが昼食をとるのをみようと言って食堂に足を運び、次いで保育室や寝室、水遊び場を見て回った総書記は、知能遊戯室に入った。

部屋の中では院児たちが数字合わせや絵合わせをしていた。

その様子を見て、子供たちがみな数字や絵を正しく合わせている、みんな利口だと目を細めていた総書記は、本立てに近寄り、その中から『朝鮮語を習いましょう』を抜き取った。

総書記は、ここには子供の知能啓発に必要な図書もあるとして、育児院の幹部に子供たちは何歳から字を読み始めるのかと聞いた。彼女がそれに答えると、総書記は随行した幹部をそばに呼び寄せ、子供向けの知能教育図書をたくさんつくって平壌育児院と愛育院はもちろん、

全国のすべての育児院と愛育院に送るようにと指示した。そして、わが国で知能教育図書を立派につくるとともに、外国でつくったよい知能教育図書を取り寄せて出版すべきだとして、世界的に有名な子供向け知能教育図書の名をあげた。

育児院を見て回った総書記は愛育院の知能遊戯室に足を運び、ここにも知能教育用絵本があるのかと聞いた。

愛育院の幹部がたくさんあると答え、本立てから絵本を一つ抜き取って手渡すと、総書記はそれを注意深く見た後、自らほかの本立てから絵本を選び取り、１ページ１ページ繰りながら見るのであった。

そして、うれしそうな語調で**「知能遊戯室に備えられ**

ている『朝鮮語を習いましょう』や『考えてみようよ』といった図書は子供の知能を啓発するのに有益な図書です」と指摘した。

総書記は絵本を手にしたまま満面に笑みをたたえ、このような本をもっとたくさんつくって全国の育児院と愛育院に送るようにと述べた。

院児たちが頼る懐

2017年2月1日、金正恩総書記は平壌初等学院を訪ねた。学院は延床面積が7870㎡で、校舎、寄宿舎、野外体育場などからなっていた。

総書記は各教室を見て回り、初等・中等教育を受ける時期は子供の人格が形成される時期なので厳しくしつけなければならない、この時期に大学教育を受ける能力が養われる、それで私は教育部門で初等・中等教育を一番重視しているのだと述べた。

そして、「親のない院児たちが頼るところはわが党しかありません。私が平壌初等学院の幹部と教職員に頼みたいことは、院児たちが悲しみというものを知らず、顔に一点のかげりも差さず、心が強くてたくましく、明るくて朗らかな子に育つように、私に代わって、親に代わ

ってよく面倒をみてほしいということです。これからは院児たちをみなさんに託します」と言った。

授業中の２年１組の教室に入った総書記は、院児たちが教員の質問に答えるのを見ると、みな頭がよいと言い、ある院児のノートを開いてみて、幹部たちにノートの質はどうかと聞いた。

幹部が質がいいと答えると、総書記は、院児たちが国産のミンドゥレ・ノートを使っているが、ミンドゥレ・ノートはマジックで字を書いてもにじまないと言った。

以前、愛育院を訪ねた時に会った院児たちがこのクラスにいると随行員が言うと、総書記はリュ・ソンの頭を

平壌初等学院の院児たちと共にいる金正恩総書記

(2017年2月1日)

なでながらそのノートを見て、字が上手だとほめた。
　そして、キム・ジンソンの顔を見て、何歳かと聞いた。ジンソンが８歳だと答えると、私はこの子たちが６歳の時に会った、その間ジンソンは見違えるほど大きくなったと喜んだ。
　それから、教室の後ろの鞄台からピンクの鞄を取り上げて椅子に掛けた総書記は、鞄は肩に担ぐように椅子の背もたれに掛けるのが常識だ、そうすれば授業が終わって鞄に教科書やノートを入れるのに便利だと指摘した。
　院児たちと記念写真を撮るために総書記が外へ出ると、ジンソンが「元帥様、どうぞお体を大切に」と挨拶した。総書記は、自分の真横で写真を撮ることになってうれしがるキム・ジンソンとリュ・ソンに、体に気をつけて勉強に励むんだぞと言ってにっこりと笑った。
　学院を去る時、総書記は、私は平壌初等学院の幹部と教職員が院児たちの実の親となり、彼らを明るくて朗らかな子供に育てて、学院の窓辺から学びの鐘の音、『われら幸せうたう』の歌声がより高く響き渡るようにするものと確信していると言い置いた。

すべての教育施設を遜色のないものに

2014年10月、新たに建設された衛星科学者住宅地区を訪ねた金正恩総書記は、多層住宅や公共の建物のほかに衛星小学校や衛星初級中学校も見て回った。

衛星小学校に足を運んだ総書記は、この学校は国家科学院の科学者の子女が学ぶ学校だから科学者の後進が育つ所だと言えると述べた。

随行員が、国家科学院が本校の各教室に教育の近代化、情報化のためのシステムを構築したと言うと、それはよいことだと賞した。

室内プールを見た総書記は、こんなに大きな室内プールがある学校はあまりないだろう、しかしプールの窓が大きすぎる、窓が大きいと冬に室温を保つのが難しい、窓をなくすべきだと言った。

そして、室内プールに水の加熱装置を設置しなかったのは、冬は言うまでもなく初春や晩秋にもプールを利用しないことにしたからのようだが、室内プールを夏にだけ利用させるくらいなら屋外にプールをつくる方がましだ、室内プールをつくるからには年中利用できるようにすべきだと指摘した。

次いで、運動場に植えた新品種の芝が所々枯れているので、ちょうど人の顔にできたはたけのようだ、小学校で芝を管理するのは難しいだろう、子供たちが運動場で思う存分遊ぶようにするには、運動場に普通の芝を植えるよりも人工芝を敷く方がいいだろう、教育施設を備えるなら遜色のないものを備えるべきだとして、衛星小学校と衛星初級中学校の運動場に人工芝を敷くようにと指示した。

その後、科学者アパートとスポーツ公園を見て回った際、公園のそばにある屋外プールが衛星初級中学校のものであることを知り、屋外プールでは夏には水泳をし、冬にはスケートをすべきだと述べた。

衛星初級中学校の１年の教室に入った総書記は、教室が申し分ない、床は人造石の上塗りがされているが、床が平らなのだから寄せ木模様のレザーを敷くべきだ、と言った。そして、机がよくできている、机の蓋を開け、その中に教科書やノート、筆箱などをしまうようになっているのがよい、蓋の前部に縁がないが、縁をつくるか溝をつくるかすべきだ、そうしないと机の上に置いた鉛筆やボールペンが何かの拍子にすぐ床に落ちてしまうだろう、と指摘した。

洋服掛けが付いている長椅子

平壌市中区域にある倉田小学校は、1954年9月に金日成（キムイルソン）主席が訪ね、３年７組の国語の授業を参観して、教育活動の内容と方法、学校の管理運営上の問題について述べた由緒ある学校である。

金正日（キムジョンイル）総書記も数度にわたってこの学校を訪ね、児童を知・徳・体を兼備した立派な人材に育成する問題をはじめ、授業で教具や実験器具を広く利用する問題など大小の問題について具体的に述べた。

2012年5月30日、金正恩総書記は新学年度を控えた倉田小学校を訪ねた。

総書記はまず沿革紹介室に足を運び、当校が教育活動で成果をあげ、初等教育機関の中で最初に朝鮮の最高栄誉勲章である金日成勲章を授与されたこと、また多くの表彰状を受け、英雄を輩出したことなど、学校の沿革についての解説に耳を傾けた。

付き添っている当校の校長が金日成主席と二人で撮った記念写真を見た総書記は、校長先生は金日成同志に授業をするのも見ていただき、金日成同志と二人で記念写

真も撮ったのだから教育者として無上の光栄に浴したわけだと言った。そして、校長先生は58年間教員、校長として務めているということだが、次世代の教育事業に一生を捧げていることになる、校長先生が青春時代から今まで次世代の教育事業に一生を捧げてきたことは高く評価すべきことだと賞した。

次いで１年の教室や外国語学習室、コンピュータ学習室などを見て回り、机や椅子などの教具・校具がよくできていると評価した。

４階にある講堂を見た総書記は、講堂が広いので教員、児童が喜ぶだろう、講堂の椅子もよくできている、と満足の意を表した。

ある教室で壁の下部にラジエーターが設置されているのを見ては、床には暖房が入っていないようだと言って床に手を当てた。随員が、この暖房施設で室内を十分暖めることができるかどうかは、まだテストしていないので分からないと言うと、総書記は、それはひと冬を過ごしてみなければ分からないだろう、教室が寒くてはならない、児童が勉強する部屋は暖かくなければならないと強調した。

また、廊下を歩いていた時に、廊下の片側に洋服掛けが付いている長椅子を備えるべきだ、そうすれば雨や雪

の日に児童が濡れたカッパや防寒着を教室に持って入らずに廊下に掛けておくことができると言った。

そして、今は濡れたカッパや防寒着などを教室に持ち込まないのが一つの常識となっている、廊下に洋服掛けが付いている長椅子を備えれば、休み時間に児童がそこに座って休むこともできるとして、「その長椅子は私が送ってあげましょう。そのためには教室の出入り口の間隔と必要な椅子の数を知らなければなりません。私が関係部門の活動家をこの学校に送って必要なデータをとらせることにしましょう」と述べた。

願いがまた一つかなったとして

2016年7月2日、金正恩総書記は新設の平壌中等学院を訪ねた。

平壌中等学院は延床面積が2万4050余㎡で、数十の教室と実験室、実習室がある校舎、水泳をはじめいろいろな運動ができる体育館、寄宿舎、管理用建物、補助建物などからなっている。

満面に笑みを浮かべて平壌中等学院の全景を見渡した総書記は、素晴らしい、学院をすっきりと建設したものだと言った。そして沿革紹介室に足を運び、学院の職員

たちに**「学院の職員と教員は、院児たちの親に代わって彼らを責任をもって教育すべきです」**と言い、わが国のことわざに三つ子の癖80までというのがあるが、子供の時についた悪い癖はなかなか直らないものだと述べた。

続けて、学校教育とともに家庭教育が重要であるので、学院の職員と教員の責任感と役割を強めるべきであると言った。

総書記は、音楽舞踊室の内部を見渡して、ほんとうに宮殿のようだ、学院の職員と教員は、自分の子のために始終心を砕き真心を尽くす親のように、院児たちに人格の形成と人間の生活に必要なさまざまな内容の教育を施すことに力を入れ、彼らをみな祖国の明日を担って立つ革命の継承者、国の働き手に育て上げるべきであると述べた。

そして、院児たちに素晴らしい学院を建ててあげたので、空の星をとってきたようにうれしい、非常に満足しているとして、院児たちをこの世に何うらやむことなく育てたいという私の願いがまた一つかなったと述べた。

管理用建物から出た総書記はサッカー場へ歩を運び、人工芝の地面を見てゴム粒を入れたのかと聞いた。

ゴム粒を入れて人工芝を敷いたと随員が答えると、総書記は人工芝をなで、運動場に人工芝を敷いたので院児たちが思う存分遊ぶことができるだろう、人工芝の間にゴム粒を入れたのはよいことだと賞した。

随員が、いろいろな競技やトレーニングができるように体育館の床にそれに適した色の線を引くつもりだと言うと、総書記は、そうせずに白いテープを貼るべきだ、競技やトレーニングをする時には白いテープを貼っておき、会議やほかの行事をする時にははがせばよいだろうと述べた。

そして、体育館ではバスケットボールだけでなく、バレーボールや卓球もし、さまざまな競技を日常的に行うべきである、週別運営計画を綿密に立てて、どの週はバスケットボールをし、どの週はバレーボールをし、どの週は卓球をするといったように体育館を多様に運営すべ

平壌中等学院を視察する金正恩総書記
（2016年7月2日）

きであると指摘した。

寄宿舎に足を踏み入れた総書記は壁に掛かっている日課表を見て、院児たちの日課に牛乳とパンの供給時間もあると言って顔をほころばせ、２階のホールを院児たちがテレビを見たり遊戯や娯楽ができるようにしたのはよいことだとして、寄宿舎の各階にこのようなホールがあるが、まるでホテルのようだ、院児たちが幼い時からこのような所で生活すればおのずと目が開かれ、文化水準が向上するだろうと述べた。

２階の１号室の寝室に入った総書記は、腰をかがめてベッドの厚さや毛布の長さ、上段のベッドの保護枠の安全性などを確かめた後、引っ越しする時には新しい寝具を持ってくるべきだと言った。

そして、学習室では院児たちに勉強ばかりさせるのではなく、日記も書かせるべきであるとして、「学院では、院児たちが日記をつけることを違えることのできない日課と見なし、その日の学習と生活で感じたことを書くように要求の度合いを強め、その指導に力を入れるべきです」と指摘した。

また、「特に、院児たちが寄宿舎で自分で寝具の整頓もし、洗面所やトイレの清掃もするようにしなければならない」として、院児たちが自分で寝室の整頓・管理ができるように管理道具もそろえる必要があると述べた。

総書記は、寄宿舎のつくりは非の打ち所がない、天井と床の施工も申し分なく、壁には教育的意義のある直観

物が掲げられている、食事室は宴会場のようだ、このような素晴らしい食事室はまたとないだろう、と満足の意を表した。

万景台革命学院が伝える話

父親に代わって

万景台革命学院は、祖国の自由と独立、富強・発展のためにすべてをささげた人たちの遺児のために設立された学院である。

金日成主席は、解放された祖国の地に新朝鮮を打ち立てるために仕事が山積していたにもかかわらず、革命の道で先に逝った戦友たちの息子・娘のために1947年10月12日、由緒深い万景台に革命学院を建てた。

金日成主席と金正日総書記は、学院の院児たちが革命に忠実であった親の後を継いで朝鮮革命の柱、中核としてたくましく育つように、教育体系と内容、生活条件など学院のすべての活動を具体的に指導するとともに、革命発展の各時期に祖国の未来である院児たちに大きな関心を払ってきた。

2012年の1月24日のソルミョンジョル（旧正月）に金正恩

総書記は、思いがけなく金正日総書記を失った深い悲しみに沈んでいるであろう院児たちを思って万景台革命学院を訪ねた。

総書記が学院に到着したと聞いて、すべての教職員と生徒が運動場へ駆け出してきた。

学院の幹部から迎接報告を受けた総書記は、ソルミョンジョルを迎えたみなさんを祝う、万景台革命学院の院児たちが見たくて来たとして、「私はソルミョンジョルを迎えて行くべき所がたくさんあるが、金正日同志を恋しがっているであろう学院の生徒たちを思って、まず万景台革命学院を訪ねました。今年のソルミョンジョルは金正日同志を失って初めて迎えるのですから、私が学院の生徒たちの親となって一緒に祝日を過ごさなければならないのです」と述べた。

総書記は歓呼の声をあげる院児たちに手をふってこたえ、まず記念写真を撮ろうと言って隊列の前へ歩みを運んだ。

そして、前列に立っている生徒の涙をふいてやりながら、「寒くないか」と聞いた。

「寒くありません」と生徒が答えると、総書記はその手をとって、手が冷たいと顔をくもらせ、幹部たちに、寒いのになぜ院児たちに手袋をはめさせなかったのか、

万景台革命学院を訪ねた金正恩総書記
(2012年1月24日)

早くはめさせるようにと指示した。
　また、足を踏み鳴らして涙ぐむほかの生徒の手をとっては、泣かずに写真を撮ろう、泣いたら写真が駄目になると言って涙をふき、ほおをさすってやった。
　写真撮影が終わると総書記は幹部たちに、閲兵式の訓練に参加している生徒たちも一緒に写真を撮ったのかと聞いた。
　幹部がみな連れてきて一緒に撮ったと答えると、総書記は満面に笑みを浮かべて、それなら安心だ、私は閲兵式に動員された生徒たちのために明日、訓練場に出向いて写真を撮るつもりだったと言った。
　自分と一緒に記念写真を撮りたいという院児たちの心中を察する金正恩総書記の姿は、10余年前の元日、ぼたん雪の降りしきる中、万景台革命学院を訪ねて院児たちを愛の懐に抱いた金正日総書記の姿そのままであった。

学院に借りができたと言って

　運動場に立って学院の会館や電子図書館を眺めていた総書記は、ふと地面に目をやった。
　そして、運動場の地面に植えた芝の長さにむらがあると指摘し、金日成同志と金正淑女史は院児たちが思

う存分遊ぶことができるように広い運動場をつくってくださったが、私はこの運動場をわが国で一番素晴らしい運動場にするつもりだ、サッカー場には良質の芝を植えるようにし、バスケットコートには競技場のトラックに用いるゴム板タータンを敷くことにしようと言った。

総書記がいくつかの講義室を見て回って外へ出ると、ぼたん雪が降りはじめた。

総書記は、金正日同志は雪がこんこんと降る日に学院を訪ねたが、私が学院に来るとまた雪が降りはじめた、あたかも古里の家に来たようだ、と深い追憶にふけりながら歩を移した。

次いで、総書記は体育館を見て回った。バスケット・ポストをさわってみた総書記は、バスケット・ポストにスポンジのようなものを当てるべきである、生徒たちがバスケットをしている時にぶつかって怪我をするおそれがある、これはある工場で生産して金正日同志に贈呈したものだが、金正日同志はそれを万景台革命学院に送ってくれたと言った。そして、ひんやりした床をなでては、床に敷いた板の質がよくない、手でさわってみるとざらざらしている、バスケットの試合をする時には転倒することがよくあるが、こんな所

で試合をして転倒すれば膝をいためるおそれがあると心配した。

総書記は体育館の内部を見渡して、卓球台を壁に立て掛けているのを見ると運動器具用の倉庫がないようだ、体育館には運動器具用の倉庫がなければならないと指摘した。

当時、学院の体育館には観覧席の下に洗面所、シャワー室、サウナ、トイレなどの厚生施設があったので、運動器具用の倉庫をつくるスペースがなかった。

こうした実態について説明を受けた総書記は、運動器具用の倉庫をつくるためには建物の敷地面積を広げる必要があると言った。

体育館は山に囲まれていたので、建物の敷地面積を広げることは難しかった。

総書記は幹部たちに、体育館を新たに建てるなり、何か対策を立てなければならないようだと言い、今日私は学院に体育館を新たに建てる借りができたと莞爾とほほえんだ。

講義室を見て回り

この日、金正恩総書記は講義室も順に見て回った。

ある講義室で机や椅子をなでた総書記は、今度机の組み立て方を改める必要があると言った。

地理講義室では、なぜ砂州が表示されていないのか、朝鮮西海は東海に比べて水深が浅く砂州地形体が発達しているのだから、必ず表示すべきであると指摘し、最高の水準の地形模型をつくるようにと指示した。

また、教育方法研究室では、教育情報化の実現状況、データの供給源、サーバーの容量などについて尋ね、随員が返答すると、それなら結構だと満足の意を表した。

そして、秀才が秀才を生むとして、教員の水準が低くてはならない、教員の水準を一段と高め、その陣容を固

めるべきであると強調した。

次いで、総書記は生物標本室を見て回った。

そこには金日成主席と金正日総書記が贈った1500余点もの標本が展示されていた。その中には、巨大なアオリイカや550kgのオサガメ、アブラガレイ、朝鮮虎、ヒグマ、ロバほどの大きさの白頭山鹿などの珍しい動物の標本もあった。

アオリイカを見た総書記は、イカの中にこんな大きなものがあることを知っている人は多くないだろう、オサガメも重さが550kgなら非常に大きな亀だと言った。

生物標本室には180kgのマンボウも展示されていた。

マンボウに尾がないのを見て総書記は、ほかのやつに

尾を食われたのではないかと声を出して笑った。
　マンボウは温帯・熱帯性海魚であり、普通体長１～２ｍ、体重200～300kgである。尾びれは変形して柔らかい肉が透明な膜に包まれ骨管となり、背びれの下端とつながっているので尾が見えない。
　総書記は、マンボウの尾はほかのやつに食われたのではなく、もともとこのようになっていると言って周りの人たちを笑わせた。
　総書記は、木に似せてつくった朝鮮地図のあちこちに付けられている鳥の剥製を見ては、わが国に生息している鳥をみな見ているようだ、生物標本室は大きくはないが、自然博物館を彷彿させると満足げに言った。

再び訪ねて

　2014年6月6日、金正恩総書記は朝鮮少年団創立68周年を迎えて再び万景台革命学院を訪ねた。
　まず、金日成主席と金正日総書記の銅像に花束をささげて黙礼した金正恩総書記は、院児たちの共にいる金日成主席と金正日総書記の銅像を眺めて、学院の長い歴史に記されている金日成主席と金正日総書記の偉

大な指導の足跡を感慨深げに回顧した。
そして、6・6節を迎えた学院の教職員、院児たちと写真を撮ろうと言って、彼らと一緒に意義深い記念写真を撮った。
次いで総書記は新設の総合体育館を見て回った。
総合体育館は、バレーボール、ハンドボール、バスケットボール、フットサルなどのコートとボクシング、フィットネス、卓球、器械体操などの練習室、射撃館を備えた多機能スポーツ施設である。
総合体育館の建設状況をつぶさに確かめた総書記は、この体育館は周りの環境とよく調和しており、見かけは大きくないが、従来の建設工法とは異なる新しい方法で工事を行ったので内部が非常に立派である、室内体育館としてはわが国で標準となり、世界に誇りに足るものだと言った。
そして、万景台革命学院の総合体育館を最高の質的水準で建設した、ほんとうに気に入った、素晴らしいと口をきわめて賞し、建設者の偉勲を高く評価した。
また、祖国の万代の財産を一つ一つ増やし、創造する楽しさは革命家だけが感じることのできる誇りであるとして、万景台革命学院の総合体育館のような世界的な建

築物は、革命同志に対する崇高な徳義心をもち、彼らの子女をあくまで責任をもって見守るわが党だけが建設できると強調した。

総書記は責任幹部たちに、革命学院の院児たちは朝鮮革命の大事な宝である、彼らをよく見守ってもらいたいと言い置いた。

改築された平壌教員大学を訪ねて

2018年1月16日、金正恩総書記は改築された平壌教員大学を訪ねた。

平壌市の幹部と勤労者は夜を日に継いで奮闘し、延床面積2万4100余㎡の平壌教員大学の改築・近代化工事を短期間に完了した。

総書記は、大学教育の質が重要である、このたび教員大学で新しい教育方法を開発して全国に一般化させたとのことだが、それはよいことだとしてこう言葉を継いだ。

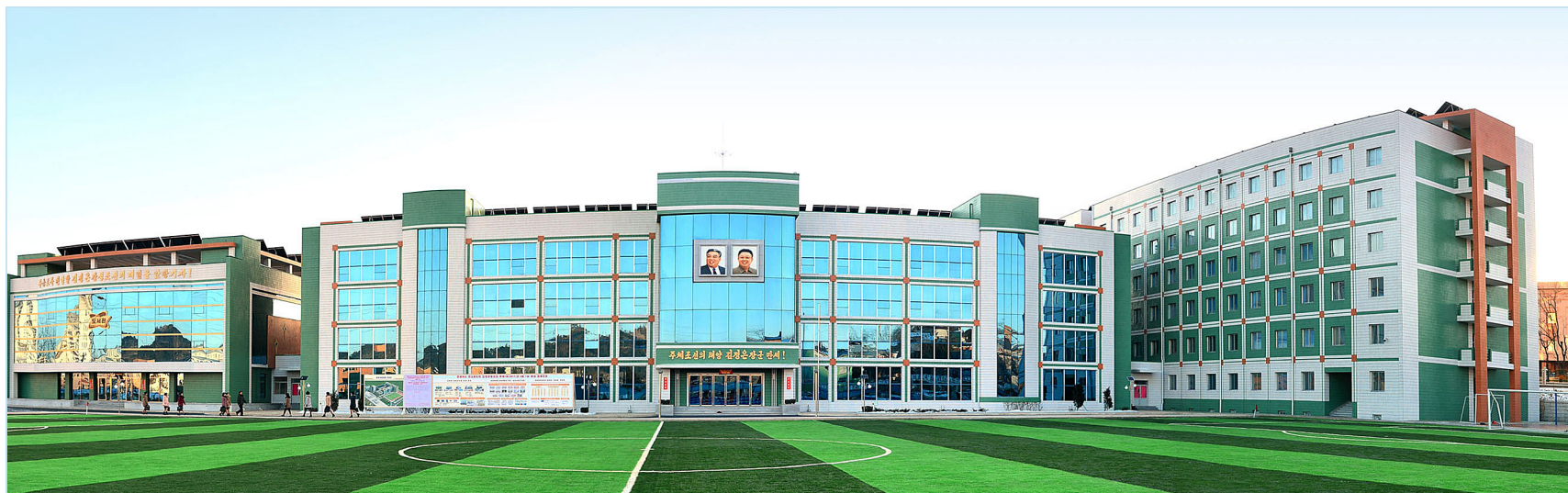
「学生たちを1等級高い段階の教育活動を担当できる教養員、教員に育て上げること、まさにこれが教員大学が掲げて努力すべき目標です。師範教育部門では、これを重要

な政策的課題としてとらえて主力を注ぐべきです」
　そして、教員大学の学生は教員の適格者を選抜すべきだ、教員は大学時代に学んだ知識を活用して社会主義強国の建設に寄与する一般の知識人とは違う、教員は自分が多くの知識を身につけるだけでなく、それをほかの人に教える能力を備えなければならないと述べた。続けて、人の能力はそれぞれ異なる、スポーツ選手にしても、選手生活の期間には実績をあげるが、監督になったら自分の役割を果たせない人がいる、そうかと思うと、一部の人は理論はよく知っているが実行力がないと言った。
　教育コントロール室に足を運んだ総書記は、ここで教員の授業進行状況を点検し、学部長や必要な人を呼んで協議会も行っていると聞いて、それならうそもつけないわけだ、統制方法が非常にすぐれている、大学のすべての教育行政活動を学生の学習に対する熱意と学力を高めることに指向させるべきだと指摘した。
　総書記は小学校授業法実技室と自然実験授業法室を見て回り、教員大学では仮想授業体験システムのようなものを積極的に導入して引き続き発展させるべきだ、教員大学の実践実技教育の比重が60％ほどなら結

平壌教員大学の教員、学生との記念撮影場に出向いた金正恩総書記
（2018年1月16日）

構だと満足の意を表した。

そして、学生たちがコンピュータで作成した授業設計方案を電子黒板に表示して発表し、討論を行っているが、なかなか面白い、学生たちにこのように討論をさせるのは非常にすぐれた授業法だ、大学で討論だけでなく、ほかの形態の講義も、このように学生の自立性と探究心を培う方法で行っているのは結構なことだと述べた。

また、学生たちがバーチャル・リアリティー技術とともに増強現実技術を利用して授業実技訓練を行っているが水準が高い、電子黒板や球形表示装置などの近代的な

設備を利用して授業を行えば、子供たちが教員の説明をすぐ理解するだろう、教員が近代的な教育設備を自在に扱い、授業を教案どおりに行うことも重要だが、より重要なのは子供の年齢的・心理的特性に応じた授業法を授業に適用することだと指摘した。

次いで美術及び視・歌唱実技室に入った総書記は、児童たちにピアノを弾かせたり絵を描かせたり書を習わせたりしているが授業法がユニークだ、このように歌を聴かせながら絵を描かせたり書を習わせたりすれば、知能を総合的に啓発するのに有益だろうと述べた。

外廊を見て回りながら総書記は、情報化、科学化の水準が非常に高く、すべての教室が多機能化されている、新しい授業法も大いに開発、導入し、現代的な教育技術を取り入れていることがよく分かると顔をほころばせた。

そして、体育館の競技ホールを、バスケットボール、バレーボール、卓球など、いろいろなスポーツ競技はもちろん、政治行事や文化行事もできるように多機能ホールにしたことが気に入った、競技ホールの温度もこれくらいなら結構だと言った。また、室内プールを見て回っては、こんな素晴らしいプールで学生たちが水泳をしているのを見ると気分がいいと言った。

慈愛深い学父母

新しい制服

かばん用布生産のために

「ミンドゥレ・ノート工場」

ずっといたくなる工場

子供たちのホテル

　新世紀の要求に即して

　しゃれた建築物

　一日を子供たちとともに

　子供たちの笑い声が絶えず響き渡るように

何の前触れもなくやってこられて

万景台少年団野営所を訪ねて

万景台学生少年宮殿をより立派に

慈愛深い学父母

新しい制服

2015年4月1日、新学年度を迎える全国の小学校１年生の制服が人々の目を引いた。

それまでの制服とは違って、女子の制服は上着は赤茶色、スカートは濃い灰色で上下の区別が明確になり、男子の制服も明るい青色にしてかわいい少年たちの姿を引き立てていた。

初級・高級中学校の生徒も新しい制服を着て登校し、大学生にもみな前の制服とは区別されるグレーの制服が支給された。新しい制服を身につけてうれしそうに学校へ行く生徒や学生の姿を見て、道を行く人たちは目を見張った。だが、これがすでに数年前から構想されていたということを知る人はほとんどいなかった。

2013年10月12日、金正淑平壌紡織工場を訪ねた金正恩総書記は、製品見本室に陳列されている布の見本を見た。

工場の幹部が陳列されている布を指して、これらは金正日総書記がご覧になった製品の見本だと言った。

それらを注意深く見ていた金正恩総書記は、生徒・学生の制服用布の陳列台の前で歩みを止めた。

総書記は前々から全国の学生青少年に新しい制服を支給することを考え、そのための課題を関係部門の幹部たちに与えた後、数度にわたって制服の見本を見て、その形や色に至るまで一つ一つ指示を与えていたのである。

総書記は制服用の布をさわってみて、製品見本室にある制服用の布が結構だと言った。

そして、**「私は全国の生徒や学生に立派な制服をつくって着せるつもりだが、そのためにはこの工場が制服用布の生産に力を入れなければなりません。……今後、全国の生徒や学生に私が見た見本どおりに制服をつくって着せれば、社会の様相が見違えるほど変わ**

るでしょう」と述べ、その日を思い描くかのように莞爾とほほえんだ。

その時、随行の幹部が制服の生産に必要な設備を備えてもらいたいと進言した。すると総書記は、生徒や学生に新しい制服をつくって着せるためには制服用布と制服の生産に必要な設備を完備しなければならないだろうと言い、即時にそのための措置を講じた。

かばん用布生産のために

2014年12月、金正淑平壌紡織工場を訪ねた金正恩総書記は、学生少年の制服と靴、学用品、かばんの問題は党が一手に引き受けて解決することにすると述べ、工場に近代的な学生かばん用布生産工程を新たに設けるようにと指示した。

2016年1月27日、総書記は金正淑平壌紡織工場を再び訪ねた。

出迎えた幹部たちと挨拶を交わした総書記は、「私が金正淑平壌紡織工場を訪ねるのはこれが４度目です。今日は、金正淑平壌紡織工場に設けたかばん用布生産工程と、この工場で生産したかばん用布でつくった学生かばんを見るつもりです」と言った。

製品見本室に足を運んだ総書記は、小学男子用の背負いかばんを手に取り、これはみな国産の布でつくったものなのか、私は紡織専門家ではないが、外国から取り寄せたかばんの見本と布が全く同じだと満足の意を表した。

そして、発展する現実の要求と子供たちの好みと趣味に応じてかばんのデザインを絶えず改善すべきだとして、かばんのデザインは子供たちの好みと趣味、美感、年齢・心理に応じて形や色、装飾などを多様なものにしなければならない、色と形をさまざまなものにし、童心に合う絵を選定しなければならないと指摘した。

続けて、わが国にかばん用の布を大量に生産しうる強固な土台が築かれたとして、本当に力がわいてくる、かばん用布の生産は問題ないと笑みを浮かべた。

「ミンドゥレ・ノート工場」

年間生産能力5000万冊のミンドゥレ・ノート工場は、全国の幼稚園の園児と各学校の児童・生徒・学生に供給するノートを専門に生産する工場である。

金正恩総書記はこの工場を「ミンドゥレ・ノート工場」と命名した。

2016年4月18日、ミンドゥレ・ノート工場を訪ねた総書記

ミンドゥレ・ノート工場を訪ねた金正恩総書記

(2016年4月18日)

は、出迎えた幹部たちと挨拶を交わしてこう述べた。

「ミンドゥレ・ノート工場は、子供たちと生徒・学生に与えるノートを専門に生産するわが党の貴重な工場です」

続けて、この工場で生産を正常化すれば、全国の子供たちと生徒・学生にノートを供給することができる、これからは子供たちと生徒・学生にわれわれが生産したノートを与えることができると満足の意を表した。

次いで、総書記は製品見本室に歩を運んだ。

ノートの陳列棚に近寄った総書記は数学のノートを手に取り、ノートの問題に関する金日成同志と金正日同志の教示に接するたびに、生徒や学生にノートを十分に供給できないでいることが心にひっかかっていたが、大きな問題が解決されたと喜びを禁じ得なかった。

そして、手にしたノートの表紙を見て、ノートの図案が童心によく合っているし、ノートの質もよい、これからは科目別に良質のノートをつくれるようになったが、これは実に大きな成果だと述べた。

沿革紹介室を見て回る時も総書記は始終笑顔を絶やさなかった。

去る１月、ミンドゥレ・ノート工場で生産したノートの見本を見た際、ノートにしたためた**「知・徳・体」「朝鮮**

のために学ぼう」「この世にうらやむことはない」などの文字を目にして、総書記は随行の幹部たちに、これは私が書いたものだと言った。
そして、あの時、われわれが生産したノートを見てあまりうれしくて、それに字を書いてみた、マジックで字を書いてにじむかどうか試してみたのだが少しもにじまなかった、ミンドゥレ・ノート工場で見本として生産したノートの質が本当によく、紙の質もよかった、製本も非の打ち所がなかったと高く評価した。
製本職場に足を踏み入れた総書記は満面に笑みを浮かべた。
広い生産現場には、仕上がったばかりのさまざまなノートやノート用紙が山のように積まれていた。
満足げに現場を見渡した総書記は、製本職場の生産現場にノート用紙がうずたかく積まれているが、見るからに素晴らしい、種類別にこのノートは一冊何枚というように基準どおりに計算して年間5000万冊のノートを生産することができるというのなら大したものだと相好を崩した。そして、今後、工場の生産能力をさらに高めて、ノートの生産を1億5000万冊に増やすべきだと述べた。
また、ミンドゥレ・ノート工場で生産するノートは価

格も安くすべきだとして、平壌から遠く離れた地方にはノートを列車で輸送し、南浦市をはじめ近い所にはトラックで輸送し、その列車やトラックにはミンドゥレ（たんぽぽ）のマークをつけるべきだと言った。

現地指導を終えた総書記は工場の幹部の手を握り、重ねて強調するが、ミンドゥレ・ノート工場の幹部と従業員は、党政策貫徹の先鋒に立つ工場、党の次世代教育政策を誇示する工場、党が一番重視する工場で働いているという誇りと自負を持って、母親が愛するわが子のために紙を綴じ合わせて帳面をつくるような気持ちで良質のノートを大量に生産して、全国の子供と生徒や学生にわれわれが生産したノートが十分に行き渡るようにしなければならないと言い置いた。

ずっといたくなる工場

平壌かばん工場は延床面積が1万590余㎡で、年間生産能力が学生かばん24万2000個、普通のかばん６万個である。

2017年1月4日、金正恩総書記は平壌かばん工場を訪ねた。

総書記は出迎えた幹部たちに「今日私は、われわれが

平壌かばん工場の製品を見る金正恩総書記
（2017年1月4日）

つくったすてきな背嚢式かばんをしょって学校に通い、笑いさざめく子供たちの姿を思い浮かべながらこの工場に来ました」と言い、われわれのものに対する誇りと自負を持って、元気に明るく育つ子供たちの姿を思い浮かべると本当に力がわいてくると述べた。

そして、かばんや学用品は大きなものではないが、子供たちを教育するうえで非常に重要な作用をするとして、子供たちが幼い時からわが国でつくった制服を着て、わが国でつくったかばんや学用品を使うようにしなければならない、そうしてこそ、彼らの胸にわれわれのものが一番だと思い、われわれのものを大事にする心が芽生え、育つものだと強調した。

続けて総書記は、「昔から子供を一人育てるのには五万の手間がかかると言われています。しかし、われわれには数百万の子供たちがいます。これはわが党の子供福だと言えます。私は、われわれの子供たちを育てるのに億万の手間がかかるとしても、それを苦労ではなく幸福だと考えます」と言った。

総書記は見本室をのぞいて、製品見本室がよく整えられている、ここに平壌かばん工場で生産した217種のかばんの見本が陳列されているそうだが、見ただけでも気分がよくなると笑みを浮かべた。

見本室を見渡した総書記は、これはみなわれわれがつくったものだと言って、幼稚園の園児用、初級中学校の女子用、小学校の男子用のかばんの見本品を注意深く見た。

次いで、ぎっしり並んだかばんを見渡して、これはかばんの豊作、かばんのなだれだと言って豪快に笑った。

そして、子供たちが非常に喜ぶだろう、この工場に来ると、ずっとここにいたくなると言った。

総書記は、誰もがここにあるかばんをほしがるそうだが、それもそのはずだ、私もここにあるかばんを一つ買って行きたいと思っていると言い、にっこりほほえんだ。

子供たちのホテル

新世紀の要求に即して

ヨット形の建築形式を誇る松涛園国際少年団野営所は、朝鮮東海の青い波が打ち寄せる白い砂浜の近くの松林の中にある。

2013年5月、金正恩総書記はこの野営所を訪れた。

出迎えた野営所の幹部たちと挨拶を交わした総書記は、松涛園国際少年団野営所は金日成同志と金正日同志の指導業績が秘められている意義深い所だ、今日私がここに来たのは、野営所の管理運営状況を確かめ、野営所を新世紀の要求に即して立派に整備するための対策を立てるためだと述べた。

金日成主席と金正日総書記が数度にわたって訪れた松涛園国際少年団野営所は、1250余名の収容能力を持つ朝鮮で最大規模の野営所である。それまで毎年４月から10月まで運営され、外国の子供たちも７、８月ごろに20～25日間、朝鮮の少年団員たちと一緒にキャンプ生活をして親善を深めていた。

総書記は、野営所の構内に金日成同志の銅像がある

が、今後、金日成同志と金正日同志の銅像を新たに丁重に建てる考えだと述べた。
そして金正日総書記が見て回った事績部屋を見ながら、野営閣に部屋はいくつあり、ひと部屋に何人入れるのか、テレビと冷蔵庫は何台あるのかと聞いては、各部屋に上等なテレビと冷蔵庫を備えてやるようにと言った。また、その年のキャンプの準備状況を確かめ、今から周到に準備するようにと強調した。次いで、幹部たちに、キャンプを中断せずにカリキュラム通りに行い、キャンプが終わった後に工事に着手して来年の4月15日までに工事を完了するようにと指示した。
同日、総書記は野営所が建設されて20年になるが、今でも構造のうえでは遜色がないとして、改造・補修工事は内部と外部をはがし、服を着替えさせるようなやり方で行うべきだと述べた。
そして、金正日同志が20年前に松涛園国際少年団野営所を建設してくれた後、建物を定期的に補修して、きちんと管理すべきであったのに、そうしなかった、以前に野営所を改造、補修しようとしたが、天鵝浦地区に移築する問題が提起されたので延期したのだが、天鵝浦地区に移築するのでなく、世界的に有名な松涛園にそのまま置いておくべきだ、野営所を改造、補修して立派に整備

しさえすれば、有名な少年団野営所として広く知られるようになるだろうと言った。

幹部たちを見渡して総書記は、松涛園国際少年団野営所では冬期キャンプも行って、全国の模範的な少年団員たちが馬息嶺スキー場でスキーもできるようにすべきである、松涛園国際少年団野営所で冬期キャンプを行えば、わが国に一つの新しいキャンプシステムを確立することになると満足げに言った。

しゃれた建築物

2014年2月、金正恩総書記は改造中の松涛園国際少年団野営所を訪ねた。

総書記は野営閣、国際親善少年会館、室内体育館、室内プール、水族館、鳥類舎などを見て回り、改造状況をつぶさに確かめた。

野営閣と食堂を見て回った総書記は、改造・補修工事が設計の要求どおりに行われているとして、子供たちのキャンプ生活になんの不便もないように最高の水準のものにしなければならないと強調した。

そして、子供たちがキャンプ生活期間に自分の手で御飯を炊き、いろいろな料理もつくって食べることができ

るように、それに必要な条件を整えるべきだと述べた。また、国際親善少年会館の設計が特にすぐれているとして、子供たちがここで映画やいろいろなビデオを存分に見ることができるように最新式の映画普及施設と音響設備を送ることにすると言った。

きれいにならされた広い運動場を見て、総書記は、トラックをつくり、サッカー場に人工芝まで敷いてやれば子供たちが非常に喜ぶだろう、このたび野営所を改造するにあたって近代的な室内体育館と室内プールを新たに建設しているが、そこで子供たちが体をしっかり鍛えることができるだろうと言った。そして、水族館と鳥類舎も新たに建設されている、世界にこのような野営所はないだろう、国の大事な宝である子供たちがキャンプの日々を楽しく愉快に過ごせるように、それに必要な各種の電子遊戯施設や文化

娯楽器具も送ることにしようと言った。

続けて、松涛園国際少年団野営所の改造工事は今年の重要な建設対象である、いつも強調していることだが、われわれはすべての建築物を百年、千年先まで見通して建設しなければならない、骨が折れるとしても、建設の質を高めてこそ胸を張って次の世代に譲り渡すことができる、松涛園国際少年団野営所の改造工事は一生涯子供たちを愛した金日成同志と金正日同志の願いをかなえる重要な事業であるとして、改造工事を所定の期日までに完了しなければならないと強調した。

2014年4月、総書記は完成を間近にした松涛園国際少年団野営所を再び訪ねた。

総書記は、野営所に新たに建てられた子供たちととも

にいる金日成主席と金正日総書記の銅像を見た後、国際親善少年会館へ歩を移した。そして、会館の劇場、登山知識普及室、電子娯楽室、図書室、国際親善室、少年団室、美術室、腕前展覧室、4D映画館などを見て回り、本当に気に入った、われわれの建築術が世界的水準に達したと誇らしげに述べた。

そして、新たに建設した運動場や室内体育館、屋外遊泳場、屋外アーチェリー場などは本当に素晴らしい、また、運動場の人工芝と観覧席の椅子、波模様の青いひさしがよく調和している、すべての建築物が文字通り一幅の美しい絵、芸術作品のようだ、水族館や鳥類舎、動物の剥製陳列室が動植物についての知識を身につけることができるように特色あるものに整えられている、子供たちが喜ぶだろうと言った。

また、野営１閣、野営２閣の寝室や食堂、調理場は言うまでもなく、便益サービス施設も童心に合ったものになっている、料理実習室も子供たちが自分の手で御飯を炊き、いろいろな料理もつくることができるようになっている、野営所のすべての建築物と施設が規模においても、形式と内容においても文明国の面貌にふさわしいだけでなく、すべての要素にわれわれの顔が生きており、チュチェの建築美学思想の要求通りに先便利性、先美学

性が保障されている、党の次代観が反映されているしゃれた建築物、世界に二つとない子供たちのホテル、子供たちの宮殿だと満足の意を表した。

一日を子供たちとともに

2014年5月2日、金正恩総書記は、松涛園国際少年団野営所に新たに建てられた金日成主席と金正日総書記の銅像の除幕式と野営所の竣工式に出席し、貴重な一日を子供たちと一緒に楽しく過ごした。

竣工式では金日成主席と金正日総書記の銅像の除幕式が行われた。

次いで、松涛園国際少年団野営所の竣工を祝うスポーツ・文化行事が盛況に行われた。

朝鮮東海の名勝松涛園の自然の風致と調和するように立派につくられた運動場では、全国少年サッカー競技大会の決勝戦が行われた。

試合が終わると、総書記は歓呼の声をあげる選手や観客に手を振ってこたえ、両チームの選手や監督、審判の手を取って励まし、一緒に記念写真を撮った。

その時、試合の補助員をしていた少年が突然総書記のところへ駆け寄り、自分たちとも記念写真を撮ってほし

松涛園国際少年団野営所を訪ねた金正恩総書記

(2014年5月2日)

いとわがままを言った。

総書記は豪快に笑い、試合の補助メンバーまで呼び寄せて再び記念写真を撮った。

同日、総書記の臨席のもとに、松涛園国際少年団野営所の国際親善少年会館ではモランボン楽団の祝賀公演『われら幸せうたう』が行われた。

その後に行われた花火の打ち上げは野営所の竣工を祝うスポーツ・文化行事のクライマックスとなった。総書記が公演の観客とともに野営所の構内に出てくると、花火が打ち上げられて天地を揺るがせ、夜空には神秘境が繰り広げられた。

このように、総書記はまる一日を子供たちと過ごした。

子供たちの笑い声が絶えず響き渡るように

2014年7月、松涛園国際少年団野営所を再び訪れた総書記は、まず、屋外遊泳場に新たに設置した急降下ウォータースライダーを見た。

去る６月の初め、人民軍で製作した急降下ウォータースライダーを見た総書記は、海水浴のシーズンが近づいてきたが、６月の末までにこれをまず松涛園国際少年団野営所に設置してやろうと言った。

総書記の意を体して、軍人建設者たちは短期間に急降下ウォータースライダーを松涛園国際少年団野営所に設置したのである。

総書記は、この急降下ウォータースライダーは見れば見るほど素晴らしい、子供たちが喜ぶだろう、われわれの力と技術でつくったものなので一層気に入った、「大同江」ブランドがついているので見栄えがすると満足の意を表した。そして、ウォータースライダーが立派に設置されている、次のキャンプから子供たちが存分に利用できるようにするようにと言った。

新たに設置した跳躍台と水槽を見ては、施工が申し分ない、屋外遊泳場に常に清らかな水があふれるように水

の濾過に万全を期するようにと述べた。

新たに建設した「ミラーハウス」を見て回った総書記は、野営所に子供たちの遊び場が日ごとに増えている、野営所に子供たちの笑い声が絶えず響き渡るようになったと大いに喜び、子供たちの明るい笑い声は人民に勝利への確信と楽観を与えると強調した。

また、水族館を見て回っては、サメをはじめ珍しい魚の種類と数が増えたと笑みを浮かべ、海水浴場を見て回っては、子供たちがマリンスポーツも楽しめるようにヨットも送ることにしようと言った。

建設中の野営所の専用駅である松涛園駅を見て回った総書記は、われわれが野営所に来る子供たちのために直通列車を編成し、運行の準備も完了したのだから、駅舎を子供たちが利用するのに便利なように、そして個性が生かされるように整えなければならないと指示した。

何の前触れもなくやってこられて

昔から奇岩怪石が多いことで知られ、名所も伝説も多い妙香山に、首都平壌の少年団員たちのための野営所が建設されてからすでに久しかった。子供たちは国の王様だとして、次世代のためなら何も惜しまなかった金日成

主席と金正日総書記の崇高な愛によって、天下の絶勝妙香山には、キャンプ生活に必要なあらゆる条件が整っており、一度に数百人を収容できる少年団野営所が建設されて、毎年子供たちがキャンプ生活を楽しんでいた。

2013年5月のある日、いつものように登山コースをたどって楽しい一時を過ごしていた子供たちは野営所を訪ねた金正恩総書記に会うことになった。

総書記は、今日私は、平壌市妙香山登山少年団野営所の実態を把握し、全国の野営所を改造、補修するための案を立てようと思って、この野営所を見て回るためにわざわざ時間を割いて来たと言った。

そして、寝室、登山知識普及室、少年団室、文化宣伝室、音楽室、食堂、会館などを見て回り、少年団員たちのキャンプ生活の状況をつぶさに確かめた。

総書記は、少年団野営所では登山の手配を綿密に行い、規律正しい生活をさせるとともに、キャンプ生活の条件を十分に整えるべきである、そのためには野営所の指導教員の陣容を固めなければならないと指摘した。そして、寝具の供給や洗濯、部屋の暖房はどのように行っているのかと聞いた。同行の幹部が、以前は寝室の暖房に電気ボイラーを利用していたが、国の電力事情が逼迫して電気ボイラーを解体してからは寝室の暖房を十分に

保障することができずにいると答えると、総書記は、子供たちが寒い部屋で生活するようにしてはならない、キャンプは4月14日から10月の末まで行うので寝室の暖房が大きな問題にはならないというが、子供たちを夜、寒い部屋で寝かせることのないように常に注意を払わなければならないと諭した。

また、洗面所の出入り口の高さが少し低いようだと指摘し、背の高い子供は頭をぶつけるかもしれない、今の子供は背が高いので出入り口の高さもそれに合わせて定めるべきだと言った。

そして、登山知識普及室を見ては、キャンプ期間に子供たちが動植物の採集もしながら豊かな生きた知識を身につけることができるようによく整えるべきだと指摘し、音楽室を見て回っては、ピアノが古すぎる、私が野営所にピアノを送ることにすると言った。

食堂に向かって野営所の構内を歩きながら、総書記は、木をたくさん植え、歩道に青石も敷いて、山あいにある野営所の特性がよく生かされるようにすべきだと指摘した。

食堂でお盆に盛られた肉や玉子、おかずを注意深く見た総書記は、子供たちに基礎食品はもちろん肉や玉子も規定量どおりに供給しなければならない、少年団野営所に食糧と副食物を円滑に供給するシステムを確立して子

供たちを十分食べさせなければならないと強調した。そして、今後近代的な調理設備を一式備える必要があるとして、こう言った。

「平壌市妙香山登山少年団野営所を改造、補修するのでなく、すっかり取り壊して新しく立派に建てるべきです。……われわれは、この野営所を21世紀だけでなく、22、23世紀になっても遜色のないようによく整えなければなりません」

続けて、この野営所を立派に建設するためには設計に力を入れなければならないとして、私が設計集団を送ることにしよう、この野営所は私が設計を見て合格点を与えてから、その設計どおりに建設しなければならない

と強調した。そして、平壌市妙香山登山少年団野営所は金日成同志が建ててくださった野営所なのだから、野営所を新しく建てる時に、今の建物をみな写真に撮って残しておくようにと指示した。

総書記はふと、子供たちが一人も見えないが、みなどこへ行ったのかと聞いた。今山登りをしているが、午後５時ごろに帰ってくることになっていると野営所の幹部が答えると、総書記は、早く行って子供たちをみな連れてくるようにと言いつけ、私がここまで来たのだから子供たちに会って記念写真を撮らなければならない、そうしなければ子供たちが非常に残念がるだろう、いくら日程が詰まっていても子供たちに会っていくと言った。

子供たちが帰ってくるまで総書記は会館を見て回り、会館の備品や設備もみな新しいものにかえるようにと指示した。

野営所に帰ってきた子供たちは総書記の姿を見て一目散に駆けてきた。

総書記は、感激のあまり涙を流しながら小躍りする子供たちを抱き寄せ、泣くと写真の映りが悪くなる、早く泣きやんで写真を写そうとなだめて記念写真を撮った。

万景台少年団野営所を訪ねて

昔から、峰の形がさながら今にも空に飛び立ちそうな竜のようなので竜岳山と呼ばれ、また、景色が美しいことにより平壌の金剛山ともいわれてきた竜岳山のふもとにある万景台少年団野営所は、学生少年のための総合的な課外教育基地である。

2016年6月3日、金正恩総書記はこの野営所を訪ねた。

総書記は鳥瞰図の屋外プールを指し示して、屋外プールをもう少し整備する必要がある、屋外プールにウォータースライダーを設置すべきだとして、その設計に力を入れるべきだ、自然の地形を利用したウォータースライダーを設置するのはたぶんここが初めてだろうと言った。

次いで鳥瞰図のバスケットボールコートを指し示して、万景台少年団野営所には室内運動場がないので屋外のバスケットボールコートの上にトラスをはり渡してシートをかけるのがいいだろう、そうすれば雨期はもちろん、どんな天候にも左右されることなく、いつでも運動をすることができると言った。そして、われわれは全国の少年団野営所や少年会館、少年宮殿を新世紀の要求に即してよりよく整備して、子供たちのために生涯心を砕いた金日成同志と

金正日同志の崇高な志を実現していかなければならないとして、われわれが今、少年団野営所をはじめ学生少年の課外教育基地を整備することを党と国家の大事と見なして、新世紀の要求に即して立派に改造しているのも金日成同志と金正日同志の崇高な志を実現していくためだと強調した。

続けて、少年団野営所ではキャンプ期間に子供たちの自立性、規律性、集団主義精神を培うことに重点を置いてキャンプ生活のスケジュールを組むべきであるとして、野営所ではキャンプ生活を多様で多彩なものにして、キャンプ期間に子供たちがいろいろな知識を身につけ、生活的に多くのことを体験するようにしなければならない、そうしてキャンプ期間が子供たちの印象に残るようにすべきであると述べた。

そして、今、党と国家、全社会の関心の下に学生少年の課外教育基地が次々と築かれているが、そうした対象が一つずつ立派に建設されるたびに親たちは喜ぶだろう、人民と子供たちの明るい笑い声を聞くこと自体が楽であるとして、人民と子供たちの明るい笑い声に生きがいを見出すのが革命家であると強調した。

万景台学生少年宮殿をより立派に

1989年5月に竣工した万景台学生少年宮殿は、学生少年

のための総合的な課外教育基地である。

科学技術サークル、音楽芸術サークルをはじめ各種のサークル室と活動室、体育館、水泳館、劇場などがある宮殿では、一日に5000余人の学生少年がさまざまな課外サークル活動を行うことができる。

2014年5月、金正恩総書記は万景台学生少年宮殿を訪ねた。

総書記は玄関ホールの壁にある金日成主席の親筆を見て、子供たちはわが国の宝であり、明日の朝鮮は子供たちのものであるという意味深いこの命題には、子供たちのためには何も惜しまなかった金日成同志の崇高な次代観がこめられていると感慨深げに述べた。そして、舞踊や伽倻琴、アコーディオンの演奏、女声重唱などの各サークル室を見て回っては子供たちの明るい前途を祝福し、書道やコンピュータ、水泳、バスケットボールなどのサークル活動を見ては、金日成同志と金正日同志の足跡が残っている万景台学生少年宮殿で朝鮮の明日を担って立つ有能な科学者、スポーツ選手、芸術家の後進をより多く育成すべきだと強調した。

また、宮殿の教員たちの水準が高く、責任感が強くてこそ子供たちの才能の芽を適時に見つけて開花させることができるとして、教員陣容をよく整え、教育の内容と方法を発展する現実に即して不断に改善すべきであると述べた。

総書記は、万景台学生少年宮殿を新世紀の要求に即して改造すべきであるとして、子供たちが抱かれているわが党の懐を形象化した宮殿の外部を花崗岩と高級建材で張り替え、施設をみな最高の水準のもので整えることにしようと言った。

続けて、勤労人民の息子、娘たちが才能の翼を思う存分広げるようにすることが党の確固たる決心であるとして、宮殿の上部に「われら幸せうたう！」「駆けよう　未来に向かって！」という文字を立てることにしようと言った。

2015年11月の末、金正恩総書記は立派に改造された万景台学生少年宮殿を再び訪ねた。

総書記は宮殿の全景を見渡して、子供たちが抱かれているわが党の懐を形象化した宮殿の外部を花崗岩と高級建材で飾ったので、宮殿に品位がそなわり、本当に見栄えがする、万景台学生少年宮殿はほかの国では建設することも、まねることもできない建築物、わが党の社会主義制度がど

んなに素晴らしいかを示す記念碑的建築物だと述べた。

次いで宮殿の各所を見て回り、改造と運営準備の状況をつぶさに確かめた。

大型朝鮮地図模型と科学ホールを見ては、特色がある、学生少年が祖国の自然と地理をよく知り、世界の先

端を行くという野心満々の夢と理想を持つことができるように内部の装飾がよく施されていると言い、芸術ホールを見ては、素晴らしい、子供たちの心理に合っており、宮殿のサークル員たちが休憩や技量発表会ができるようによく整えられていると述べた。また、コンピュータサークル室や物理サークル室などの科学技術サークル室がある科学棟を見ては、立派に改造されている、すべてのサークル室に近代的な設備が備えられているので、サークル員たちが思う存分学んで、科学の翼を広げることができるようになったと言って喜んだ。

芸能棟を見て回った総書記は、学生少年がそれぞれの趣味と素質に応じて技量を磨くことができるように改造

工事がよくなされていると言い、刺繡サークル室や書道サークル室、伽倻琴サークル室、アコーディオンサークル室、女声重唱サークル室、声楽サークル室、民族器楽総合レッスン場、電子楽団総合レッスン場などは非の打ち所がないと賞した。

そして、収容能力2000人の劇場を見て、現代的美感と童心に合っており、どんな芸術公演もできるようになっていると述べた。

また、水泳館、体育館などのスポーツ施設を国際競技大会もできるように一新しただけでなく、スポーツサークル室もすぐれた才能を持っている子供たちをスポーツ名手に育て上げることができるようによく整えられている、屋外に建設したスポーツの場と自動車運転実習場も周辺の環境と調和している、寄宿舎も地方の学生少年が生活するのに何の不便も感じないように立派に建設されているとして満足の意を表した。

総書記は、万景台学生少年宮殿がすっかり様変わりしているので初めて来たような感じがする、童話の世界に入ってきたような感じだ、総合的な課外教育基地としてのめざましい変貌を遂げた宮殿を利用する子供たちがどんなに喜ぶだろうかと考えるとうれしくなると、満面に笑みを浮かべた。

優待される教員

超高層アパート

教員たちは愛国者である

至らぬ点はないかと

竣工式にも臨席して

大同江に浮かんだ「ヨット」

何も惜しくない

科学重視、人材重視の象徴

科学によって人民の楽園を

優待される教員

超高層アパート

教員たちは愛国者である

現在、平壌の竜興四つ角の近くには金日成総合大学教員の超高層アパートが立っている。金正日総書記は生前、金日成総合大学の教職員の住宅問題に深い関心を払い、果てしなく続く前線視察の道でも手帳に「**総合大学のアパート**」と書き留め、何回も丸をつけては末期の日々まで心を砕いた。

金正日総書記の遺訓貫徹を第一とする金正恩総書記は、2012年11月20日と翌年の１月に数回にわたって幹部に、金日成総合大学教員アパートを最高の水準で建設することについて話し、敷地は竜興橋付近に定め、建設は近衛部隊として名を馳せている某軍部隊に任せるようにと指示した。

2013年8月13日、金正恩総書記は、金日成総合大学の

教員アパートの建設状況を確かめるために、幹部たちを伴って建設現場に出向いた。

１号棟と２号棟の世帯数を確かめた総書記は、天を衝くようなアパートを仰ぎ見て、満足げに「本当に素晴らしい」と言った。

じっと超高層アパートを見ていた総書記はアパートの下部を指差して、超高層アパートの場合、建物の高さを考慮して下部に便益サービス施設のようなものをつくれば、見た目がよく、安定した感じがするだろう、アパートを建設する際、科学者たちが生活する上で些細な不便も感じないように便益施設を立派に整えるべきだと指摘した。

次いで総書記は２号棟へ足を運んだ。

その時、内部の壁塗りが行われていたので、２号棟の中は湿気が立ち込めていた。しかし、そんなことは意に介さず、総書記は一気に３階へ上がった。

３階のある住戸に入った総書記は、靴入れはどこに置き、飾り棚はどこに置くのかと聞いた。幹部がそれぞれの場所を指し示すと、総書記は軽くうなずき、アーチ形になっている居間の開口部に目をやった。そして、住戸の中に入って見ると居間へ入る開口部がよくできている、以前私は開口部はアーチ形にするのがよ

いと言ったが、居間に通じる開口部をアーチ形にし、両側を柱で飾っているので見栄えがする、気に入ったと、重ねて賞した。

広々とした居間の真ん中に立って、「このようにし

たので本当に見栄えがするではないか」と満足の意を表した総書記は、居間の両側の壁面を指し示して、居間にはテレビも備え、テーブルやソファーも備えるべきだと言った。

そして、部屋を見回した後、ふと天井を見て、「**部屋の高さはいくらか**」と聞いた。建設を受け持っている幹部が2.4mだと答えると、総書記は、今建設している住宅はたいてい部屋の高さが高いが、このアパートは部屋の高さが低いので穏やかな感じがすると評価した。またほかの部屋に入ってはベランダの壁塗りの状態を確かめ、アパートの下方の空地を見下ろして、設計部門の幹部に建物の周辺の空地には公園をつくるのがよいだろうと言った。

次いで、ほかの部屋に入った総書記は、床を見て「**床はどのようにするつもりなのか**」と聞いた。すると、設計部門の幹部はリノリウムを敷くことになっていると答え、現地建設部隊の指揮官は、祖父母の部屋と子供部屋にはオンドル用の床紙を貼り、書斎と夫婦の部屋にはリノリウム、居間と前室（部屋に入る前にある間）にはモザイクパーケットを敷くことになっていると具体的に説明した。

終始ほほえんでいた総書記は、わが国にこのようなア

パートはないだろうとして、「私は科学者たちを押し立てるつもりです。次世代を育て、国の人材を育成するのに一生を捧げる教員たちは愛国者です。彼らのためなら何も惜しいものはありません。今後、このようなアパートをたくさん建設して教員や研究士に与えようというのが党の意図です」と述べた。

続けて、教員と研究士の生活をよく見守るのは祖国の将来にかかわる重要なことである、そうしてこそ彼らが何の不便も感じることなく次世代の教育と科学研究活動に専心することができ、仕事でより大きな成果を収めることができると強調した。

至らぬ点はないかと

2013年9月28日、総書記は完成間近の金日成総合大学教員アパートを再び訪ねた。

総書記が何の前触れもなくやってきたので、現地にはアパートの主人である大学の責任幹部が一人もいなかった。

それを知った総書記は、主人たちと一緒にアパートを見よう、彼らを早く呼んでくるようにと言った。

そして、幹部たちを見やって、竜興四つ角に建った

金日成総合大学教員アパートが素晴らしい、近くで見上げると本当に高いと言い、１号棟と２号棟の高さはそれぞれ何ｍなのかと聞いた。

一幹部が１号棟は105ｍで、２号棟は125ｍだと答えると、総書記は、このアパートはこの地区の建物の中で一番高いだろうと、笑みを浮かべた。

そして、またアパートを見上げて、外壁にさまざまの色のタイルを張り付けているが、見栄えがする、アパートを立派に建設するには設計にも力を入れなければならないが、施工も巧みに行わなければならない、アパートを設計するのはやさしいが、設計通りに施工するのは難しいとし、軍人たちが設計の複雑なこのアパートを設計通りに施工するためにさぞ苦労しただろうと、彼らの労をねぎらった。

大学の責任幹部が到着すると、総書記は彼らと挨拶を交わして、**「アパートがほとんど出来上がったので主人たちと一緒に見て回るために来ました」**と述べ、ほかの幹部たちに、今日は完成を間近にした金日成総合大学教員アパートを大学の総長と党責任書記と一緒に見て回ることにすると言った。そして、しばし黙した後、大学の責任幹部に、アパートの割り当てを適切に行う必要がある、教員や研究士がみなこのアパート

に移りたいと言うかもしれない、いろいろな角度から検討して些細な偏向も生じないように割り当て案を立てる必要があると述べた。

続けて、このアパートに移れない教員や研究士が残念がるかもしれないが、彼らにもこの先このようなアパートを建ててやればいいだろうと言った。

この前建設現場を訪れた時にも、アパートの内部を見て回りながら、あれこれと具体的に指示を与えたが、この日も総書記は内部をじっくり見て回った。

２号棟の３階１号室の前室に入った総書記は、右側の壁面を指し示して幹部たちに、前室に入る廊下の壁に鏡がないが、鏡を掛けるのがいいだろう、外出する時に髪をとかし、服装も整えることができるように出入り口の近くに楕円形の鏡を掛け、その下には櫛などを置く台を付けるべきだと言った。

次いで、前室に備えてある家具をあけ、それが靴入れだと分かると、出入り口から靴入れまでの距離を目測して、出入り口から靴入れまでの距離が少し離れすぎているようだと指摘した。

また前室を注意深く見回した総書記は、飾り棚と壁の間のすきまに目をとめ、このすきまはどのようにふさぐつもりなのかと聞いた。幹部がそこには飾り帯を貼るつ

もりだと答えると、総書記は、すき間が見えないようにきれいに貼るようにと指示した。

食事室を見ては、食事室にあっさりした色の椅子を備えたので台所と食事室の調和がとれている、教員アパートに入居する人たちが何もうらやむことのないように必要なものをすべて備えてやるべきだと、重ねて強調した。

次いで、共同手洗いや夫婦用寝室のそばにある夫婦用手洗いまで見て回った総書記は、共同手洗いがよく出来ている、夫婦用の部屋に手洗いをもう一つつくったのはよいことだと賞した。そして、夫婦用寝室のたんすをあ

けて中をのぞき、今後たんすをつくる時には棚の高さを調節できるようにつくる必要がある、服は長いものもあれば短いものもあるのだから、たんすの棚を固定せずに、服の長さに応じて上げたり下げたりできるようにつくるべきだと指摘した。次に、総書記は書斎に入って机の前にある椅子に座った。そして、壁を指差して、書斎には教員や研究士が学習や講義の準備をするのに不便を感じることのないように壁に棚式本立てを取り付けるのがいいだろうと言った。

総書記は、今日中に棚式本立ての形成図案を作成して報告するようにと指示し、今度このアパートの書斎の壁に棚式本立てを取り付けてみて、好評だったら、今後建設するアパートにはみな棚式本立てを取り付けるようにすべきだと強調した。

子供部屋に入った総書記はオンドル用の床紙が貼られた床を見て、大学の責任幹部に、床にビニール・レザーを敷くのがいいのでないかと聞いた。幹部が床紙を貼れば部屋も暖かくなるからよさそうだと答えると、総書記は、家の主人たちが入居すれば、子供部屋にどっちみちビニール・レザーを敷くだろうから、われわれが敷いてやることにしようと言った。

続けて、各部屋にベッドを備えるべきだ、このアパー

トは300世帯なので、夫婦用の部屋と子供部屋にベッドを備えるには600台は要るだろうと言った。

居間を出る時に物置にビニール・レザーが敷かれているのを眼にした総書記は、**「物置の床にまでビニール・レザーを敷いたので見栄えがするではないか、よく気がついた」**と賞した。そして、さあ見なさい、物置にまでビニール・レザーを敷いているのに部屋に敷かないわけにはいかないではないか、夫婦用の部屋にもビニール・レザーを敷いてやるべきだ、同じ家に20世紀と21世紀を共存させてはだめだと、顔をほころばせた。

総書記のユーモアに一同は爆笑した。総書記も豪快に笑い、すべての部屋にビニール・レザーを敷くようにと重ねて強調した。

廊下に出てエレベーターの前に立ちどまった総書記は、エレベーターは動くのかと聞いた。幹部が今試運転をしていると答えると、総書記は室内休憩場は何階にあるのかと、再び尋ねた。

17階にあると答えると、総書記はそこへ上がってみようと言った。瞬間、一同は当惑した。その時、エレベーターは試運転中だったので、歩いて17階まで上がるしか

なかったからである。幹部たちが引き止めたが、総書記は、大丈夫だ、運動するつもりで歩いて上がると言った。そして、先に立って階段を上がりはじめ、きついだろうからここに残っているように、ちょっと見てすぐ下りてくるからここにいるようにと、かえって老年の幹部をいたわった。

蒸し暑いうえに、仕上げ作業のため廊下には湿気が多かったので、先に立って17階までの200以上の階段を上がる間に総書記は汗みずくになった。

17階へ上がった総書記は室内休憩場を見回して、休憩場に特色があると賞し、小区画に積んである遊戯器具を見て、ここはなんなのかと聞いた。幹部が子供の遊び場にすることになっていると答えると、総書記は、そうすれば教員や研究士の子供たちが非常に喜ぶだろうと、満面に笑みを浮かべた。

もう一度休憩場を見回した総書記は、芸術家たちが住んでいる高層アパートにはこのような室内休憩場はないはずだ、今は知識経済時代、頭脳戦の時代なのだから科学者たちを押し立てるべきだと言った。

休憩場を見て回った総書記はしばしも休まず階段を下

りはじめた。

総書記は、これまで建設したアパートのうちで金日成総合大学教員アパートが一番素晴らしい、このアパートの設計はアパート設計の標準にできるようになされている、金日成総合大学教員アパートは本当に非の打ち所がない、すべてが気に入ったと、重ねて満足の意を表した。

竣工式にも臨席して

朝鮮労働党創立記念日の前日の2013年10月9日、総書記は金日成総合大学教員アパートの竣工式場に赴いた。

総書記は、教員たちが新しい家をもらって喜んでいるのかと聞いた。家をもらった教員や研究士はみな喜び、感激にひたっていると大学の幹部が答えると、総書記は笑みを浮かべて軽くうなずいた。

竣工式が終わった後、総書記は幹部たちとともにアパートの内部を見て回った。

「今日のような竣工式はどの国でも行ったことがありません。これは、金日成総合大学のすべての教員と研究

金日成総合大学教員アパートの竣工式に出向く金正恩総書記
（2013年10月9日）

士が全国の人民と全世界の人々がうらやむ幸福の絶頂に立ったことを示しています」

こう言った総書記は、さて、どこから見ようかと誰にともなく聞いた。

建設部隊の指揮官が「44階を見てください」と答えた。

すると総書記は、今日は第2玄関の44階に上がってみよう、この前は44階を見ることができなかったと言った。

44階に上がってある家に入った総書記は、右側の壁に掛かっている鏡を見て、この前、建設中のアパートを見て回った時、前室に入る廊下の壁に鏡を掛け、外出する時に身なりを整えることができるようにするようにと言っただが、このように鏡を掛けるといいではないかとして微笑を浮かべた。

そして鏡の下を見て、鏡の下には台がなければならない、台がなければ櫛も置くことができない、今後アパートを建設する際に鏡の下に台を備え付けるのを忘れてはならないと指摘した。

次いで、前室を経て居間のベランダに出た総書記は市中を俯瞰した。総書記はベランダで歩を移しなが

ら、このアパートをもらえなかった教員や研究士は残念がっているだろう、しかし残念がることはない、来年に金策工業総合大学教員アパートを建てた後、また金日成総合大学教員アパートを建てることにしようと、彼らの気持ちを思いやった。

　実際、アパートを割り当てられなかった教員や研究士は非常に残念がっていた。ところが、総書記が彼らの胸中を推し量ってくれるので、大学の責任幹部たちは目頭が熱くなり、心から謝意を表した。

　総書記は居間に入ってテレビを置く位置や６人用食器セットをしまう場所などをいちいち確かめた。そして同行の幹部たちを見渡して、今日金日成総合大学教員アパートの竣工式が盛大に行われたが、党が金日成総合大学の教員に最高級のアパートを提供し、竣工式も国家的行事として盛大に行ったのは、わが党の科学重視、教育重視、人材重視の思想を全世界に今一度誇示したことになるとして、科学者を重視すべきである、そうしてこそわが国の科学と技術を発展させることができると重ねて強調した。

　次いで、台所の戸棚に並んでいる食器を見、その戸を

開けてみた総書記は、取っ手が不恰好だ、恰好よくつくるようにと指摘した。そして、台所がこれくらいなら結構だと言い、この前部屋には床紙を貼るのでなくビニール・レザーを敷くようにと指示したのだが、そうしたのかと聞いた。すべての部屋にビニール・レザーを敷いたと建設部隊の指揮官が答えると、総書記は軽くうなずき、ビニール・レザーが敷かれた床を見た。

廊下に敷かれたモザイクパーケットを見ては、これはなんの木でつくったものなのか、クヌギなのかと聞き、指揮官がそうだと答えると、満足げにうなずいた。

共同手洗いを見た総書記は、このように手洗いが二つあればいいではないか、手洗いが一つしかなければ、家族の多い家では朝みんなが手洗いの前に一列に並んで順番を待つようなことになりかねないが、それでは不便きわまりないではないかと、生活の隅々にまで心を配った。

総書記は、来年に金策工業総合大学のアパートを建てると、ほかの単位でも建ててくれと言うだろう、国の事情はだんだんよくなるだろうと確信した。

30階に下りて、そこの休憩ホールを見た総書記は、休

憩場がよく整えられている、ほかの国には休憩場のある高層アパートはないだろうと言った。

そして、老人たちは外に出なくてもここで十分休息をとることができるだろう、子供たちはもっと喜ぶだろう、雨が降っても雪が降っても関係なしだと顔をほころばせ、教員や研究士が書斎で勉強し、勉強の合間にここで休息をとればいいだろう、屑籠が見えないが屑籠も備えるようにと言った。

アパートを見て回った後、総書記は、宮殿のようなアパートに入居する金日成総合大学の教員、研究士とともに、超高層アパートを背景に記念写真を撮った。

大同江に浮かんだ「ヨット」

何も惜しくない

竜興四つ角に建設された金日成総合大学教員アパートを見て人々がうらやましがっている時、平川地区の大同江のほとりでは、金策工業総合大学教員アパートの建設工事が急ピッチで進んでいた。

2014年5月20日、金正恩総書記はアパートの建設状況を確かめるため工事現場に出向いた。

総書記は、風光明媚な大同江のほとりに軍人建設者たちが建設している金策工業総合大学教員アパートを見て回るために来たと言い、空高くそびえるアパートの骨組みを満足げに見上げた。

そして、建設現場の雰囲気が申し分ない、骨組み工事が大方終わったようだが実に素晴らしい、アパートの外壁が曲面になっているのでちょうど大同江に浮かんでいるヨットのように見えると、満足の意を表して言葉を継いだ。

「このように建物の外壁を曲面にした超高層アパートはわが国で初めてです。わが国の設計家と施工者の水準が一段階また上がったことが分かります。金策工業総合大学教員アパートは、建築の造形芸術性を絶えず革新していくという党の意図が反映されたしゃれた建築物、標準建築物です」

総書記は、このように建築の造形芸術化を立派に実現したアパートを金策工業総合大学の教員や研究士に与えることができると思うとうれしくなると言い、1号棟へ歩を移した。

教員や研究士の生活条件を整えずに研究成果を期待するのは、ゆでた玉子からひよこがかえるのを望むようなものだと強調した総書記は、幹部たちとともに建物の中に入った。

総書記は建設状況をいちいち確かめて、階段の壁面にカゼインを塗るとのことだが、装飾外装材を塗るのがよさそうだと指摘し、部屋の壁塗り状況を見ては、完成した教員アパートが目に見えるようだと、微笑を浮かべた。

５階に上がって外を見やった総書記は、素晴らしい眺めだと、莞爾とほほえんだ。

総書記は、今後この地区に金策工業総合大学の教員、研究士のアパートをさらに建てるべきだ、建設中のこのアパートから大同江の河畔に沿って下手にアパートを建設すればこの地区の面目が一新するだろう、倉田通りのように高さの違うアパートを屈曲をもたせて建設すれば見栄えがするだろうと、その設計方向を示した。

アパートから大学までの距離を確かめた総書記は、歩いて15〜20分ほどかかるのなら健康にもいいだろうと言い、この地区に建設する通りの名を「**未来科学者通り**」と命名

した。そして、設計部門の幹部に、早期に未来科学者通りの形成案を作成して提出するようにと指示した。

外に出た総書記は、金日成総合大学教員アパートの１階にはサービス施設がないが、金策工業総合大学教員アパートの１階にはサービス施設がある、これはいいことだ、１階に商店などの便益サービス施設を設ければ見栄えもするし、住民の生活にも便利だろう、前に１階に科学技術展示場を設ける問題が持ち上がった時、私がそれを差し止めた、住宅地に科学技術展示場を設けるのはふさわしくないと言った。

そして、金策工業総合大学教員アパートは、建設部門の活動家大講習が開かれた後、飛躍的な発展を遂げているわが国の建築術を誇示する傑作だ、アパートが二つの棟からなっているが、この二つの棟がよく調和していると、重ねて賞した。

総書記は、金策工業総合大学教員アパートの建設には多くの資金がかかるが惜しまずに提供するつもりだ、今各地に重要対象を建設しているので多くの資金が必要だが、国の隆盛・繁栄のための事業と人材の育成に一生をささげている教員、研究士のためなら何も惜しくないと

して、いくら資金が不足しても金策工業総合大学教員アパートを最高の水準で建設するようにと指示した。

続けて、骨組み工事が終わったら内部の工事をしなければならないので、仕上げ資材を円滑に提供してこそ建設工事を10月10日までに終えることができる、アパートに備える家具も早くつくるべきだとして、某単位にその課題を与えるようにと指示した。

また、先に完成するアパートに入居できない教員や研究士の胸中を推し量って、今建設している２棟は10月10日までに完成して功労のある教員、研究士が入居するようにし、500世帯のアパートは来年の4月15日までに完成するということを知らせて、彼らが住宅のことを心配せずに教育活動と科学研究活動に専念するようにしなければならないと強調した。

科学重視、人材重視の象徴

まだ三伏の蒸し暑さが残っていた2014年8月12日、総書記は幹部たちを伴って再び建設現場に出向いた。

２号棟を見て回って外に出た総書記は、空高くそびえるアパートを見上げて、金策工業総合大学教員アパート

は実に素晴らしい、以前はこの周辺の建物の中で羊角島ホテルが一番高く、素晴らしかったが、今ではこのアパートが一番素晴らしい建物として頭角を現すことになった、大同江の向こう岸から見ればもっと素晴らしいだろうと、満面に笑みを浮かべた。

完成を間近に控えた２棟の超高層アパートは見れば見るほど壮観だった。

総書記は、アパートに備える家具も決まりきった形式ではなく、いろいろな形式のものをつくるべきだ、そのためには家具のデザイナーが研究を重ねなければならないと指摘した。

そして、建築の基本は設計の段階から主体性と民族性を固守し、造形化、芸術化を実現することである、金策工業総合大学教員アパートは設計はもちろん施工においても主体性と便利性が見事に保障された誇るべき建築物だとして、次のように言葉を継いだ。

「遠からずこの素晴らしいアパートを金策工業総合大学の教員、研究士に与えることができると思うと、どんなにうれしいか分かりません。このアパートに入居して喜ぶ金策工業総合大学の教員、研究士のことを考えると、たまっていた疲れがすっかりとれるようです」

総書記は、風光明媚な大同江のほとりに建設された金策工業総合大学教員アパートにはわが党の科学重視、人材重視の思想が集中的に具現されているとして、科学重視、人材重視の思想を引き続き堅持していかなければならないと強調した。

科学によって人民の楽園を

2014年10月16日、完成した金策工業総合大学教員アパートを見て回るために、総書記は三たび現地に赴いた。

「金策工業総合大学教員アパートが素晴らしいです。まるで大同江に浮かんでいるヨットのようです」

総書記はこう言って、アパートの外壁に階ごとに帯状に白いタイルを張ってあるので階が明確に区分され、見た目にもよいと賞した。

そして、アパートの外壁にタイルを張る時には階が明確に区分されるようにしなければならないと、いささかの遜色もないアパートを教員たちに提供するために心を砕いた。

エレベーターに乗っては、安全性が保障されている

かどうかよく点検する必要があるとし、エレベーターがとまる位置が廊下の床面より少し低いようだが直すようにと指摘した。

1玄関のある家に入って暖房施設について確かめた

総書記は、冷暖房は地熱を利用して行うようになっているとのことだが、それで冷暖房がよくきくのなら安心だと言い、設備を正常に稼動することができるようにスペアの部品も十分に提供する必要があると指摘した。

次に最上階の家を見て回り、このような家には家族の少ない若い教員や研究士が住むようにするのがいいだろう、家を割り当てるにあたって上の階には若い人たちを入れることにしたとのことだが、若い人たちは上の階に住むのを好むだろうと、微笑を浮かべた。

そして、居間の窓を閉めてみて、すきま風が吹き込む音がしないのを見ると施工がよくなされているようだ、軍人建設者たちが施工を念入りに行っていると満足の意を表して、こう言葉を継いだ。

「……今、平壌市が日ごとにめざましい変貌を遂げています」

総書記は、夫婦部屋にある手洗いの蛇口をひねってみて、一番上の階であるせいか水圧が弱いようだ、教員たちが生活上不便を感じないように水を十分に供給しなければならないと指摘した。

総書記は、１階の未来科学者通り商店では電子製品と

学用品を販売することになっている、商店には「アリラン」という看板を掲げ、「アリラン」ブランドの携帯電話やテレビ、コンピュータなどを販売すべきだとして、科学者、教育者が住むことになる通りの性格と使命に即してすべてをそれに服従させるべきだと述べた。

そして、コンクリートで舗装した庭を見ては、アパートの庭はピッチで舗装すべきだ、今後未来科学者通りが形成されたら、全般的にピッチで舗装してこそアパートの庭と道路、遊歩道がよく調和して見栄えがするだろうと指摘した。

「金策工業総合大学教員アパートは、主体性と民族性、独創性と便利性、造形芸術性が完璧に調和した素晴らしい建築物です」

満足げにこう言った総書記は、外国でこのような家を金で買おうとすれば数百万ドルもかかるそうだが、そのはずだ、このアパートはアパートではなくホテルのようだ、このように立派に完成したアパートを金策工業総合大学の教員たちに与えることができると思うとうれしくなると、喜びを隠し切れなかった。

結びの言葉

教育条件と教育環境の改善、教育の内容と方法の発展、児童・生徒・学生に対する国の投資、教員に施される恩恵、これらは朝鮮の教育発展の推進力となり、人材の大集団を育てる培養土となっている。

インドが主催するコードシェフ・コンテストは世界３大インターネットプログラムコンテストの一つである。

朝鮮の金日成総合大学の学生たちは2013年からこのコンテストに参加して高い実力を発揮し、世界のプログラム界の大きな関心を集めた。

このコンテストを見た某国の権威のあるプログラミングの専門家は、インターネットを通じて金日成総合大学に次のような文を寄せた。

「私は今回のコンテストで、数千人の世界的なプログラマーと対抗して選手権保持者の地位を守るために努力を尽くした。……私は二つの大学を卒業しているだけでなく、経験も豊かである。

あなたたちは経験を積んだ専門家ではなく、ただの大学生だ。……しかし、あなたたちは私と、コンテス

トに参加した全世界のプログラマーたちに信じがたい実力を示した。
あなたたちの大学は真に世界一流の大学だ。
私は、あなたたちとあなたたちの大学がより大きな成果を収めることを願っている」
コードシェフ・コンテストの主催者側は、インターネットを通じて次のような文を金日成総合大学に寄せた。
「あなたたちの優勝を祝う。本協会と全世界のコンテスト参加者は、コンテストの問題に対するあなたたちの思考方法を知りたいと思っている。
コンテストの問題を解いたあなたたちの経験を知らせてくれたら、本協会のホームページに掲載するとともに、これまでのコンテストに提出された問題についての解説を修正する権限もあなたたちに与えるだろう。
次に、私たちはあなたたちがコンテストの問題提示に参与してくれるよう要請する。あなたたちが問題を提示してくれるなら、私たちはうれしく思うであろうし、協会全体がその恩恵をこうむるだろう。……今後とも本コンテストを愛し、引き続き参加してくれることを望む。敬意を表する」
2014年6月17日から22日までデンマークで開催されたグラドゥス国際ピアノコンクールでは、朝鮮の13歳のユ・

ビョルミさんが高い芸術的技量を発揮し、観客から音楽神童と賞された。

2015年4月22日から30日までロシアのサマラ州で開催された第20回トリヤチ国際青少年ピアノコンクールでは、朝鮮のパク・コンイ君が世界の名曲を見事に弾きこなして審査員たちを驚嘆させ、一等賞を授与された。

朝鮮には1800余の分校がある。分校も学校であるので、児童が３人であれ４人であれ彼らのために教員がいなければならず、教室はもちろん実験室や教具・校具もなければならない。だから、どれほどの資金が要るかは押して知るべきである。

いつか灯台がある朝鮮西海の小島の分校を訪ねた外国人はこう言った。

「学校が児童を訪ねる国は朝鮮しかないだろう。次世代を大切にし、次世代の教育にすべてを惜しみなく振り向けるところに社会主義朝鮮の洋々たる未来があると言える」

指導者と教育

執　筆　朴美月
編　集　卓成日
翻　訳　徐正次
レイアウト　許京準
発　行　朝鮮民主主義人民共和国
外国文出版社
発行日　チュチェ110(2021)年5月

E-mail:flph@star-co.net.kp
http://www.korean-books.com.kp